防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第178号(2022. 1. 1)
事務局 川西地区自主防災会

2022年　明けましておめでとうございます！

かがわ自主ぼう連絡協議会　年頭のごあいさつ

会長 岩﨑 正朔

自主防災関係者の皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年はコロナ禍により、多くの防災訓練等が中止となり、フォローアップ事業も十分な成果を上げることが出来ませんでしたが10年前に香川県内自主防災組織約3300余のアンケート調査を行ないましたがその1部の組織（350 組織）をピックアップして、10年後どのような活動実体かをあらためてアンケート調査を行ない、自主防災組織の課題等の分析につなげて新たなるフォローアップへと深ぼりしたいと思っています。

本年2022年につきましては、危機管理総局のご指導もいただきコロナ禍によって活動力が弱体した自主防災組織や福祉施設、更には教育機関に対しても取組み強化等を講じていきたいと考えています。

「災害は忘れたころにやってくる」と言う格言がありますが、南海トラフ地震対策ということで「公助」「共助」「自助」それぞれの立ち位置において 15 年近く頑張ってきておりますが、やや疲れ気味でないかと思っています。

2022年より改めて“連動力”をベースに関係組織協力して、地域のすみずみまでハード・ソフト両面にわたって点検と要配慮者支援活動の具体策と研修を実践してまいりたいと思っています。

本年も引き続き、香川県内の地域防災力強化に関係団体の皆さんと手をとり合って頑張る所存でございます。どうかよろしくお願い申し上げ、新年のごあいさつとします。

香川県危機管理総局長　新年のご挨拶

香川県危機管理総局長
寺嶋　賢治

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

皆さま方には、日頃より地域防災力の強化に多大なご尽力をいただいており、誠にありがとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、ここ最近は大雨などにより、全国各地で洪水や土砂災害が発生しており、昨年も熱海の土石流をはじめ、甚大な被害を生じた災害が発生しました。本県でも、このような風水害がいつ発生してもおかしくない状況にあり、また、南海トラフ地震の今後 30 年以内の発生確率が「70%～80%」に高まっていることなどを踏まえると、防災・減災対策の推進が喫緊の課題となっております。

こうした災害時には、「公助」はもとより、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」の力が重要になっています。この「共助」の要となるのが自主防災組織です。

今年も市町やかがわ自主ぼう連絡協議会の皆さまと連携し、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所運営訓練の実施や、避難行動要支援者の円滑な避難支援に向けた個別避難計画作成促進への取組、地区防災計画の策定支援など、自主防災活動の活性化に向け取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きのご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、かがわ自主ぼう連絡協議会の今後ますますのご発展と、今年が皆様方とご家族にとってより良き年となりますよう心から祈念し、年始のご挨拶とさせていただきます。

新 春 座 談 会

「謹んで新春のお慶び申し上げます。みなさまお健やかに新春をお迎えのことと存じます。昨年は大変お世話になり、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます」

岩崎会長挨拶

新春座談会にご出席頂きまして、誠にありがとうございます。2011 年 3 月 11 日東日本大震災，1000 年に一度と言う大津波、更には福島原子力発電所の事故後、その当時は全国的に、また県内でも公助、共助、自助がうまく連携した取り組みが続いておったと思いますが、この数年少し取組が以前に比べて低調ぎみにと感じておるところで有ります。

本日は各界でご活躍の皆様にお集まり頂き、「継続した地域防災活動に何が必要か」と言うことを一つのテーマとしまして、ご議論をお願いしたいなと思っております。

まず出席者皆様の自己紹介をおねがいしますが、その中で一番防災の関わりについて、自己紹介をお願いします。

案内の順番で参ります、三豊市立財田小学校丸岡校長先生から自己紹介について防災の関わり等についてのお話頂いたらと思います、よろしくお願い致します。

丸岡校長

三豊市立財田小学校で校長をしております、丸岡典子と申します。財田小学校は 6 年目の新設統合小学校です。

12 月 3 日に日本では割と大きな地震が 2 つ有りました。和歌山を震源とする地震では、香川県西部では震度 3 でした。子ども達はほとんど全員が机の下にもぐって頭を守り、先生の指示があるまで、一言もしゃべらずにじっと待ちました。小さい頃からの訓練が生きていたなあと思います。

教職員としての反省点は 2 点ありました。1 つ目は、地震が起きた時「地震です。先生の指示があるまでじっとしていて下さい。」と言う、最初の放送が出来なかったこと。もう 1 つは落ち着いた後「授業を続行して下さい。」と放送を入れたのですが、運動場に集めて残留児童の確認をするとか、支援を要する児童がきちんと避難出来るか等、小さい震度の時に演習しておれば良かったことです。今日は皆様の色々な話を聞かせて頂き、これからの勉強に活かしてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

岩崎会長
　ありがとうございました。
　続きまして、かがわ自主ぼう連絡協議会副会長の吉原さんお願いいたします。

吉原副会長

　高松太田南地区のコミュニティ協議会の会長をしております吉原和夫と申します。
　私ども太田南地区内には、大きな災害の要因となるような河川や山などがございません。その中で住民の災害に対する意識が非常に低いところが有り、どのようにしたら意識が高まるかと言うことで、平成 19 年から防災まち作り事業と言うことで、色々まち作り活動をしてきました。今もあちこち悩みながら、香川県さんや高松市危機管理課さん、かがわ自主ぼうの皆様方に色々な形でご支援を頂いて、何とか防災に対して意識を高めて行こうと言う活動をしております。よろしくお願いいたします。

岩崎会長
　ありがとうございました。
　続きまして、特別養護老人ホームエデンの丘施設長の古川さんお願いいたします。

古川施設長

　特別養護老人ホームエデンの丘で施設長をしております古川と申します。私の防災との関りは、今現在は県下の災害ネットワークの方に関わらせて頂いております。
　防災に関心が高まりましたのは、平成 16 年高松が凄く大きな台風で浸水被害があった時に、当施設の裏側山の表層土が崩れまして、駐車場が土砂で埋まると言う、怖い体験をいたしました。
　それ以降防災士の資格を取り、地区の防災部会にも関わらせて頂くようになって、地域の方と一緒に防災に取り組ませて頂いております。
　弦打地区自主防災会にも参加はさせて頂いておりますが、中々活動の方には参加出来ておりません、今はそれが反省点です。今日はよろしくお願いいたします。

岩崎会長
　ありがとうございました。
　続きまして、情報通信交流館（e-とぴあ・かがわ）、館長補佐の樋川さんお願いいたします。

樋川館長補佐

情報通信交流館（e-とぴあ・かがわ）の樋川と申します。よろしくお願いします。

当館はデジタルを活用して県民の皆様の生活を豊かにしていくことを目的とした施設です。IT の使い方を習得した後は、何に役立てていくかということが重要と思っております。

私の防災の関わりは、私が宮城県出身ということもあり、１０年前の地元で起きた大災害をうけ、川西地区自主防災会のメンバーの一員として、震災発生の３週間後に被災地に入り、炊き出しなどのボランティア活動を３日ほどさせて頂きました。被災地を目の当たりにして、起きてしまったことはどうしようもないことですが、起きる前に出来る事を色々と考えていくきっかけとなりました。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

岩崎会長

次に川西区自主防災会の若手、中山さん自己紹介をよろしくお願いいたします。

中山氏　川西地区自主防災会

川西地区自主防災会に所属しております、中山と申します。私は、香川大学教育学部付属高松中学校で理科の講師としてお世話になっており、また香川大学教職大学院に所属しております。

私としても防災に危機感を持っておりまして、東日本大震災が起きた当初、私は小学校６年生くらいでしたが、そこから７年たち、大学１年生の時、防災で何かしたいと思い、初めて現地を見ることがありました、やはり現場を知る必要があると感じ、そこから色々な所に働きかけまして、自主防災会にたどり着き、現在お世話になっています。

私自身はつい先日まで大学生で、卒業論文で東日本大震災の事と南海トラフ地震の臨時情報について、難点や課題に焦点を当てて論文を書きました。こう言う事に関心があって来ましたので皆様の声に耳を傾けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

岩崎会長

最後に危機管理課の長谷川さんお願いいたします。

長谷川主任主事　香川県危機管理課

香川県危機管理課　長谷川と申します。令和２年度の人事異動で危機管理課所属になり、今年で２年目です。

自主防災活動の支援や、避難所、さらに避難行動支援者に関係する業務などを主に担当しております。特に自主防災組織の活動に関しての分野では、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様に

は、会長を初め大変ご協力を頂いているところです。よろしくお願いいたします。

岩崎会長

それでは、これから座談会の本題、中身に入ってまいりたいと思います。

毎年香川県が「県政世論調査」を、３千人の方にお願いして、５月から６月にかけてやっております。６割位の方から回答が帰ってきておりまして、施策の重要度とそれに対する満足度を調査しております。重要度 No.1 が「防災・減災社会の構築」という状況がここ数年続いていますが、一方で満足度になりますと最下位かそれに近いような状態です。先般新聞にも記事が掲載されておりましたが、防災・減災対策について、県民の過半数が不十分と感じていると言うことで、「自助」と「公助」双方が課題とされておりました。

満足度を上昇させるには、それぞれの立場において、今後どのような事をやって行けば、満足度が高まっていくのか、皆様の立場で、こんな事をしたらどうかといった、アイディアも含めてお願いしたいと思います。

まず財田小学校の丸岡校長お願いいたします。

瀬戸内海の島々が遠望できる良い雰囲気で座談会

丸岡校長

新聞記事の内容で、自分や家族で取り組む対策に不満を感じている人が６割以上に上るという事から考えてみました。自分や家族に出来る事には限りがあるのですが、一番簡単に出来て、命を守ることに直結しているのでないかと思います。そして、災害が起こってからでは遅いと思います。

そこで学校現場では子ども達に、自分の命は自分で守るという事を伝え、身に付けさせたいです。身に付けさせるためには教育が必要です。学校が常に防災を意識して、色々な取り組みを行い改善していく、それを子から親に伝えてもらうというのが、最良と思っております。

例えば避難訓練の時には、火災・不審者・地震の避難訓練の同じところ・違うところをはっきりと子ども達に伝える。さらに毎年１回、備蓄品を県から頂いているのですが、その時には、担任から備蓄品を配布する理由を伝えることと、持って帰ったらお家での備蓄について話し合いをして下さい、と家庭に働きかけております。

また、台風等での、保護者へ児童の引き渡しの際も、学校側は防災の意識を持って、連絡先が把握出来るか、把握出来ない場合にはきちんと連絡が取れるようにしておいて下さいという内容をご家庭に働き掛けるようにしております。

岩崎会長
僕らも、地元の小学校と訓練行いますが、子どもさんを通じるのが、１番広がりが大きいなと思うことが有ります。校長先生のお話を聞いて、これからそうした考えを持った先生が増えくれれば、ものすごく防災意識は上がって行くと思います。
続いて、吉原さんお願いいたします。

吉原副会長
私どもの地域に太田南小学校がありまして、そこの小学校と年 2 回連携した訓練をやっております。小学校が年 1 回防災訓練、防災学習をやっており、そこに地域の防災係が中心になって指導に行くという事を現在やっております。
その狙いは、私どもは小学校の児童よりも、その保護者の方々に防災の知識を高めて頂くという目的で、児童と保護者が一緒になって担架搬送等の訓練を通じて防災意識を高めて行く事を継続してやっており、これは今後とも継続してやってまいりたいと思っております。

岩崎会長
ありがとうございました。続いて、古川さんお願いいたします。

古川施設長
私どもは平成 16 年の時に災害を経験した事によって、結構職員の方もその時の怖さというものを身に染みて感じております。その時から職員の入れ替わりもあるのですが、その時の館内の写真で有ったり、崩れた土砂であったり、そうした写真を基に研修をしたり、訓練に臨んだりという事をさせて頂いているおかげか、比較的防災に対しての意識が高まって来ていると思っております。
先程、丸岡先生がおっしゃられたように、先日の地震の時も、シェイクアウト訓練の後だった、というのもあるのかも知れないですけれども、私が１番行動をとれなかった位で、職員はすぐに放送を入れたり、周りを見たり確認をしたうえで避難情報の連絡を入れたりをした事が出来ており、凄いなというふうに手前味噌ながら感心をしたところです。
地域で有ったりとか、福祉の施設で有ったりとかに目を向けてみると、四国大会で災害に関する分科会を開くと、香川県の施設はほとんど手を上げないのが現状です。高知だと津波、愛媛の方だと原発というところで、非常にどの施設さんも高い頻度で防災に対する対策をされておりまして、何年か前の西日本豪雨時、愛媛の方でもその施設が土砂に埋まったりとかした時に、近隣施設で協定まで結んではいないのですが、物資を配ったりとかの連携を取った、という話がありました。普段からそういう事の

話し合いや、訓練をしていないと、いざという時に動けないと思います。経験に勝る意識はないとは思うのですが、いかに意識を高めて行くかという事は現場に対して必要ではないかと思います。

それと仕組みの方に思うのですが、施設の方では、うちの施設も福祉避難所の方に入っております。協定という事で他にも多くの施設が福祉避難所になっているのですけれども、実際に維持管理でどう動くのか、私も施設長をしていながら不安な所であります。

福祉避難所として、行政の方からこの人をお願いします、と言われて引き受けると聞いておりますが、現場の地区防災部会に入ると、災害時には、福祉避難所で身体の不自由な人はいつでも受け入れてくれるのだよねという、意識の差があって一体どちらを重視したらいいのかなという事を行政とも話し合いをしたり、指定福祉避難所で無い分、沢山の方を受け入れても、物資は届かない、人は少ない、でもお世話しなくてはいけない状況になった時に、何もかも回らなくなっても困りますので、今後の課題かなと思っております。

岩崎会長

はい、ありがとうございました。次に、樋川さんお願いいたします。

樋川館長補佐

自分や家族で取り組む対策や県市町の対策に不満ということですけれども、おそらく行政が出来る事には限界があります。一方で自主防災組織のカバー率なんかは非常に香川県では高くて、自助に関してはかなり取り組みが評価されているのではないかと、私は思っております。

ここで自分の家族や取組に不満があるとしている意味は、自助の取り組みが十分で無いということかなと思いました。自助をいかに発展させて行くかというところにおいては、やはり災害を自分事として感じる事が大事かなと思います、特に香川県は災害が少ない場所と言われていますので、なかなか防災に関して意識を付けることが少ないかと思いますが、日本全国では災害が起きている場所は本当に沢山ありまして、そういう所に関心を持つという事は、１つ大事なのかなと思っております。

過去の記録と声に１つ焦点を当ててみてはどうかと思っております。国土地理院が公開しているインターネット上の地図で、災害遺構マップという地図があり、これは過去に起きた災害の記念碑といった場所を地図上に示したものです。写真と災害の時期とか死者がどのくらいいたか、という情報がマップに示されていて、そういう物を見ながらその地域を訪れたり、近い場所であれば深堀りして調べたり、ということを教育活動に入れて行くと、より自分達に身近な防災意識に繋がるのかな、と少し感じました。これはあくまで自分が思っている事で、この活動をしている訳では無く、こういった教育手法もあるのではないかと思いました。

岩崎会長
　はい、ありがとうございました。中山さんお願いいたします。

中山氏　川西地区自主防災会
　樋川さんのお話で、震災遺構を見て回る方が良いのでないかとのお話がありました、私自身も初めて東日本大震災の様子を見に行った時に、現地にはそのまま震災時の様子が残されているところがあるのですけれども、それらを見て使命感みたいなものを強く感じたので、やはりそういう物を子ども達に見せる事が、大事になって来るのだなとも思います。
　教育が防災の根幹をなしてくるのは、私も身近に感じるところで、先日和歌山県で起きました、地震ですけれども、その地震の時に私も中学校に勤務しており、避難行動を終えて子ども達と校舎へ戻ろうねと話をした後に、生徒がこそっと自分の所に来て「先生は今の訓練で納得して無いでしょう」と言いました。生徒はそういうところを見抜いているのだなと思う一方で、その生徒も満足していないから、僕だったら共感してくれると思って、そうした事を言って来てくれるのだな、やはりそういうところで生徒の素直な気持ちが表れているのだなと感じました。
　訓練で避難行動がとれたから良いかというもので無く、例えばその避難行動を強く内省して行く事が大事になって来るのかなと思います。やはり知識のある自主防災会では、皆様意欲が高くて、防災について誰もが関心があるのだなと、納得してしまうような感覚に陥ってしまうのですけれど、私自身も防災についてまだまだ広めていかなければいけない立場なのだと、そういうところを自覚していく必要があるのだなと強く思いました。

岩崎会長
　はい、ありがとうございました。
　最後に、行政の立場として長谷川さんお願いします。

長谷川主任主事　香川県危機管理課
　県や市町が取り組む防災減災対策に、特に不満があるという点についてですが、どういう事に不満があるのかさらに細かく聞いたところによると、どのような防災減災対策を行っているのかを知らない、後は実践的な防災教育が十分ではないなどがさらに不満がある点として言われておりました。
　例えば防災教育の点でしたら、県では防災教育副読本を作成し、各小学校に配布して、防災教育の材料を提供しています。
　実践的な避難訓練や防災教育等の点では、かがわ自主ぼう連絡協議会と連携して、自主防災組織や学校施設等の訓練の支援を行っております。
　災害時の情報提供という点では、スマートフォン向けアプリ「香川県防災ナビ」を使って、例えば平時から自分の住んでいる地域の避難所がどこにあるのか確認したり、地域のハザード情報の確認をしたりとか、そういう場面で使っていただけるアプリを

使って情報発信に取り組んでおります。さらに防災情報メールに登録していただければ、例えばお住いの地域を登録しておけば、その地域の警報・注意報の情報や、地震の際にはその地域は震度いくつです、とすぐに情報が入りますので、登録を呼びかけています。

今後も市町等と連携して防災減災対策に取り組んでまいりたいと思っています。

岩崎会長

それぞれ皆様の立場からのお考えだったと思いますが、いずれにせよ皆様家庭に入れば自助の立場になる訳でございます。私どもの川西地区でも 2,700 世帯あって、常に家具転倒防止なんかを呼びかけておりましても、5 割 5 分の方はしてくれているのですが、そこから先が中々進まないのです。

それぞれの家庭人として自分を守る、家族を守る為にやはり、住宅の耐震補強とか家具の転倒防止とか、避難場所や避難径路の確認等をきちんとやられて行く事が、裾野を広げて行くために非常に大事なことだなあと思っております。

編集後記

　年頭の防災減災の輪は、新春座談会となりました。関係者の皆様にお集りいただき、誠にありがとうございました。

　仕上げの段階でページ数が多く、それぞれご意見をいただいている中で頁を少なくすることは、発言者の皆様に大変失礼になるかと思い、第１部（自己紹介・県政世論調査の防災減災社会の満足度向上について）を正月号に掲載し、第２部（南海地震や大雨・台風対策への取組みについて、新しい年への抱負）については２月号に掲載することとしました。
あしからずご了承下さい。
２月号お楽しみに～。

　なお、座談会の文字起こし及び編集はかがわ自主ぼう連絡協議会　岡　重範が担当しました。